

高等学校第1学年 特別活動（LHR）学習指導案

期 日 平成26年10月15日（水）

場 所 県立鹿本商工高等学校

授業者 教諭 福島 誠也

1 主題名

情報公開の責任と危険性・信憑性について

2 主題について

(1) ねらいについて

今、生徒たちにとって必要な情報活用能力における情報社会に参画する態度の一つとして、インターネット上における情報の真偽や、その意図を適切につかみ取る力を身に付けていくことが求められている。

ここでは、インターネット上の事例に対してどう対処していくかについて生徒同士で意見交流を行いながら、その背景にあるものを見つけ出す知識や態度を身に付けることをねらいとする。

また、同時に自分自身が発する情報（メッセージ）においても、社会に対する影響や、自分自身を大切にすうえで注意すべき点がある点に目を向け、行動前の確認や危険予測、対策をおこなうための契機とする。

(2) 生徒の実態について

【省略】

[事前アンケート結果(抜粋)]

- ①携帯電話、スマートフォン等のネット接続可能な情報端末の所持率 ○%
- ②端末所持者の端末内訳（注：複数所持あり）
スマートフォン○% 携帯 ○% その他(PC)○%
- ③端末所持者の1日の使用時間 ~1時間 ○% 1~2時間 ○%
2~3時間 ○% 3時間~ ○%
- ④端末所持者の利用機能等(複数回答)
LINE ○% ゲーム ○% 通話 ○% メール ○%
Facebook ○% Twitter ○%
- ⑤GPS設定 常時ON ○% 常時OFF ○% 切り替えて利用 ○% 不明 ○%
- ⑥端末所持者のネット上で知り合った知人 いる○% いない○%
- ⑦「ネット上で知り合った知人」と会った経験 ある○% なし ○%

(3) 資料について

導入において生徒へのアンケート調査結果をもとに作成したプレゼンテーションスライドを用いて、生徒の情報端末の利用状況を説明する。

また、学習課題として、スライドでボランティアへの取り組みの事例を提示する。情報端末に慣れ親しんでいる生徒にとって身近な「ネットを活用した手軽なボランティア（模擬 Web サイト）」を提示することで、ボランティア参加のために個人情報 Web サイトへアップすることについての課題や留意点について生徒が考えられるようにする。

ワークシートには生徒個人の参加の意思やその理由とともに、グループでの参加意思の決定についても書き入れるようにする。さらに、グループ発表の際には、他のグループの発表について参考になる意見を記入できるようにし、生徒の「気付き」から「行動」への変容を促すようにする。

授業の終末では、情報公開の責任と危険性・信憑性についての資料を実物投影機で拡大提示しながら、慎重に情報を判断する上でのポイントや、技術的な検証方法について解説を行う。

(4) 指導にあたって

- ・生徒達自身の情報端末の活用についての実態を示すことで、学習課題の解釈への意欲を高められるようにする。
- ・個人での検討から 2 人組での意見交換、4 人組での意見集約・発表と学習形態を変えながら、互いに学び合う場を設定する。学習形態を工夫することで、情報をより深く判断するためには、様々な視点が存在することに気付かせる。さらには、生徒自身の考えを深められるようにする。
- ・技術的検証（確認方法）を伝えることにより、生徒が具体的な対応策について理解できるようにする。

(5) 情報モラル教育の視点から

ア 本時は、「モデルカリキュラム」の目標「3. 安全への知恵」、項目「e 5 - 1 : 情報の信頼性を吟味し、適切に対応できる」ならびに「e 5 - 2 : 自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識を持って行動できる」との関連を重視して展開する。

イ 本時は情報モラルの内容を教材化して授業を行う。生徒にとっては最も身近なコミュニケーションツールとなっている情報端末だが、紙や電話（口頭）と異なる特質を意識し、安易な行動が困難な事態を引き起こすことを想起させる。

ウ 危険性から身を守るために情報通信社会から一步引いてしまうのではなく、正しい知識や検証するための技術的手法などを身に付けることで、より安全で快適な生活に生かすことを目標とする。

エ 判断のための知識、検証のための技術をもとに、どのような行動を心掛けていくかを明文化させることで、具体的な行動指針に変えさせる。

3 本時の学習（1 / 1 時間）

(1) 目標

情報の確かさを見極めるための具体的な知識、手法について理解する。

(2) 展開

過程	主な学習活動	主な発問・指示（○）等 指導上の留意点及び評価	備考
導入 1 0 分	1 事前アンケート結果を示し、情報端末活用の実態を確認する。 2 ボランティア Web サイトについて知る。	<ul style="list-style-type: none"> 事前アンケート結果を示すことで、生徒自身に自分たちの活用を振り返ることができるようにする。 Web サイトへ参加の意思表示の投稿をするだけで、人助けできる仕組みであることを伝える。 	プレゼンテーションスライドによる提示 模擬 Web サイト
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> Web サイトによるボランティア活動への参加が妥当かどうか考えよう </div>			
展開 3 5 分	3 Web サイトによるボランティア活動の内容を記した資料を読む <ul style="list-style-type: none"> 各自で参加、不参加への考えをもつ 隣の席同士で各自、参加、不参加への考えを交流する。 3～4人のグループを作り、グループとしての参加意思と、その根拠をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各自の考えをワークシートに記入しましょう。 ○二人組で互いの考えを伝え、比べてみましょう。 ・互いの考えで不明点や気になる点はお互い聞くようにする。 ○話し合っ、グループとしての参加の意思とその根拠をまとめてください。 ・可能な限りグループのメンバー全員が納得できる結論を導かせるように話し合いを支援する。 ・意見がまとまらない場合は、両者の意見を整理し、紹介するようにする。 	ワークシート配付
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>[評価] (ワークシート)</p> <p>B : Web サイトの危険性について指摘することができる。</p> </div>			
		A 基準 Web サイトの危険性について根拠を挙げ、指摘することができる。 < B 基準に達していない生徒への手立て > 自分の活用場面を想起させ、日常と比較させる。	

	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに、グループとしての参加意思と、その根拠を発表する。 各グループの意見を整理し、技術的観点からの危険予測や対策について具体的なポイントについて知る。 ドメインの確かさ 公式アカウントの確認 GPS 情報付加の確認等 	<p>○各グループの意見を整理しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術的観点からの危険予測や対策について具体的なポイントについて解説する。 実物投影機を使い、資料を拡大提示することで、生徒の理解を促す。 	<p>資料(技術情報等)の配付</p> <p>実物投影機</p>
終末 5分	<p>4 まとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後、特に守りたいことを一つ決める。 	<p>○今日の学習の中から特に一つ、これだけは守るということを決めましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一つに絞ることで、確実な行動化を促すようにする。 	<p>ワークシートへの記入</p>